

2024年5月14日

各 位

会社名 鹿島建設株式会社
代表者 代表取締役社長 天野 裕正
(コード番号 1812 東証プライム・名証プレミア)
問合せ先 執行役員経営企画部長 高林 宏隆
(TEL. 03-5544-1111 (代表))

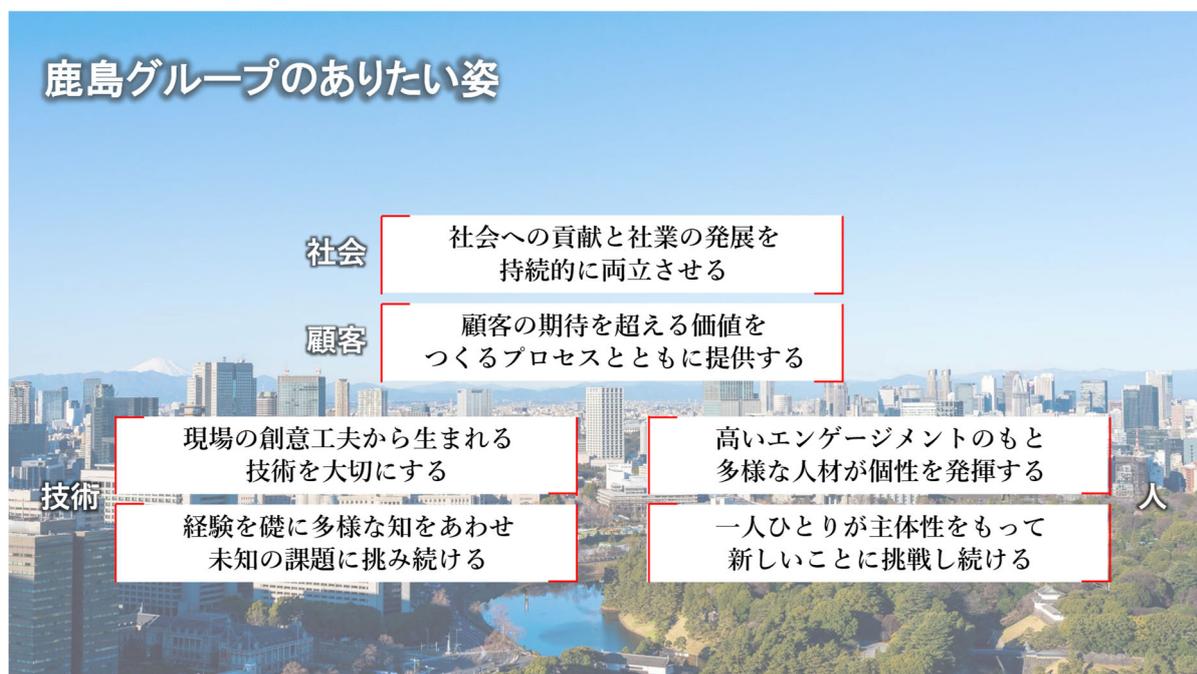
鹿島グループ中期経営計画（2024～2026）－中核をさらに強化し、未来を開拓する－ の策定について

当社は、本日開催の取締役会において、「鹿島グループ中期経営計画（2024～2026）」を決議いたしましたのでお知らせいたします。

I. 鹿島グループのありたい姿

「鹿島グループ中期経営計画（2024～2026）」の策定にあたり、社員・役員からの声や経営理念、受け継いできた企業風土・価値観などを踏まえ、鹿島グループが目指す「ありたい姿」を具体的に言語化しました。

価値創造の源泉である人と技術をつなぎ合わせ、顧客、さらにその先にある社会に貢献することを目指します。



II. 「鹿島グループ中期経営計画（2024～2026）－中核をさらに強化し、未来を開拓する－」の要旨

本中期経営計画は、「ありたい姿」を念頭に置き、中核である国内建設事業、不動産開発事業、海外事業のさらなる強化を進めるとともに、技術立社としてバリューチェーンの拡充やR&D、イノベーション推進により新たな価値を創出し、社会や顧客とともに未来を開拓していく計画としております。

1. 成長戦略

(1) 国内建設事業を深める

- ① 社会・顧客に付加価値をもたらす提案力・設計施工力・エンジニアリング力の強化
- ② デジタル化の推進による生産性向上・業務効率化
- ③ 安全で魅力ある働きやすい現場の追求

(2) 成長領域を伸ばす

- ① 不動産開発事業の収益拡大と投資効率向上
- ② グローバル・プラットフォームの強化
- ③ バリューチェーン拡充による収益源の多様化

(3) 技術立社として新たな価値を創る

- ① グローバルな R&D 体制の強化
- ② イノベーション推進による新たな価値の創出
- ③ 鹿島らしい新規事業の創出

(4) サステナビリティ

<地球環境>

- ① 「鹿島環境ビジョン2050plus」の推進
- ② 自然災害に対する社会・企業のサステナビリティの確保

<人材、コンプライアンス・人権の尊重>

- ① 成長・変革を担う人づくり・仕組みづくり
- ② サプライチェーンの維持・強化、担い手確保
- ③ コンプライアンス・人権の尊重

※「鹿島環境ビジョン2050plus」の詳細は別途公表

2. 経営目標

親会社株主に帰属する当期純利益：2026 年度 1,300 億円以上
(2030 年度 1,500 億円以上)

ROE（自己資本利益率）：継続的に 10%を上回る水準

3. 株主還元

配当性向 40%を目安とした配当を実施するとともに、業績、財務状況及び経営環境を勘案し、自己株式の取得など機動的な株主還元を行う。(2024 年度は 300 億円の自己株式取得を予定し、今後も機動的な自己株式取得を継続。)

「鹿島グループ中期経営計画 (2024~2026)」及び「鹿島環境ビジョン2050plus」の詳細は当社ウェブサイトに掲載しております。

鹿島グループ中期経営計画 (2024~2026)

URL	https://www.kajima.co.jp/ir/newplan/index-j.html
掲載日	2024 年 5 月 14 日

鹿島環境ビジョン2050plus

URL	https://www.kajima.co.jp/sustainability/policy/vision/index-j.html
掲載日	2024 年 5 月 14 日

以 上